

熊谷美術館 ピアノ

日本最古のピアノとされるイギリス製の四角形のピアノは、1819年から1820年4月10日までの間にロンドンのウィリアム・ロルフ・アンド・サンズ社によって作られた。1823年8月、ドイツ人の医師で博物学者のフィリップ・フランツ・バルタザール・フォン・シーボルト(1796-1866)が来日した際、このピアノを持参した。シーボルトは長崎出島に居を構え、オランダ東インド会社に医師として雇われた。1826年、徳川将軍に敬意を表して長崎から江戸に向かうオランダ軍の行列に同行し、顕微鏡、温度計、地球儀、このピアノなど、西洋の技術的な品物を数多く携えていた。

1828年、シーボルトは日本地図を不法に所持していたことが発覚し、スパイの疑いで国外追放された。出国前には、長崎で教え子だった岡研介(1799-1839)に愛用のピアノを預け、友情の証として義比に贈っている。シーボルトはピアノの内側にオランダ語で「Tot gedachtenis aan mynen vriend Koemaja-Dr. von Siebold 1828」とメッセージを書いています。これは直訳すると「To the memory of my friend, Kumaya-Dr. von Siebold 1828」ということになる。

「シーボルトのピアノ」とも呼ばれるこのピアノは、1955年に熊谷家の蔵から再発見され、翌年にはモーツァルト200周年記念行事でも取り上げられた。その後、傷み具合を慎重に調べ、修理を行った。1965年、熊谷美術館の開館に合わせて熊谷家住宅に返還され、現在に至る。